

「民族誌映画『アルムの響き¹』——オーストリア・チロル州の山間部農業における経験的知識について」

ベルリン・フンボルト大学大学院ヨーロッパ民族学研究科修士課程
高柳ふみ

ヨーロッパのアルプス山脈一帯では、夏季に牛や羊などの家畜を山の高地の牧草地（ドイツ語圏ではアルム/アルプと呼ばれる）に放牧し、冬季の飼料用に干し草を作る移牧農業が営まれている。

発表者は 2013 年夏に、オーストリアのチロル州エッツ谷セルデン地区の農家を事例にフィールドワークを実施した。本調査では、夏季の放牧地の農作業において、とりわけ天気、地形または植生といった自然環境がどのように知覚され²、その条件下でどう経験的知識が実践されるかを考察した。またこれらの経験的知識を、ピエール・ブルデューの概念による「身体化された文化資本」³ととらえ、その分類研究を行った。

フィールドワークでは、農家のボランティアヘルパーとして、標高 2000m に位置する放牧地の山小屋で農家の家族と共同生活をし、搾乳や干し草作り等の農作業を手伝いながら参与観察を行った。同時に映像記録の方法も用い、農作業中に体現される経験的知識の視覚化を試み、撮影した映像から修士論文の補完として民族誌映画「アルムの響き」を制作した。

本発表の前半では映画「アルムの響き」から抜粋した数シーンを例に、（経験的）知識の視覚化について、また調査で用いた映像記録の手法および、編集過程における調査地の人々の関わり方について考察を行う。

本作品は、ヨーロッパの民族誌映画祭の他、環境や山岳をテーマとした映画祭およびチロル州立博物館で上映され、さらにセルデンのローカルテレビ局でも放映された。各々の上映会において、例えば映像/文化人類学者や農業者といった異なる視聴者層があり、それぞれの反応および論点に違いがみられた。

後半では、視聴者からフィードバックをもとに、本作を改めて様々な視点から見直すとともに、今後の民族誌映画製作への課題と可能性を検討する。

¹日本語タイトルは仮訳。独語原題は「Almklang hallt nach」、英訳は「Alpine Rings Linger」。

²自然環境の知覚に関しては Tim Ingold の著書を参照。Ingold, Tim: Ingold, Tim: The Perception of the Environment. Essays in Livelihood, Dwelling and Skill. London, N.Y. 2011.

³ Bourdieu, Pierre: Die verborgenen Mechanismen der Macht. Hamburg 1992/2005. Aus dem Franz. von Jürgen Bolder.